

<p>a 学校教育目標</p>	<p>生き生きと学び 郷土の宝となる 児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命) 「知・徳・体」の基礎基本が身につく、ふるさとに誇りを持つ児童の育成 ~ 自己を愛し、夢を語る児童の育成 ~ 【ビジョン】(自校の将来像) ・基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・地域を支え郷土の宝となる人材を育て、地域・保護者から信頼される学校</p>
-----------------	--------------------------------------	------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画					自己評価					改善方針			学校関係者評価		
c 中期 経営目標	d 短期 経営目標	e 目標達成 のための方策	f 評価項目・ 指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
<p>確かな学力の向上</p> <p>・基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する学校</p>	<p>基礎学力の定着</p>	<p>○各種学力調査において個別期待値を設定し、評価指標としていく。</p>	<p>・設定した個別期待値を80%以上が上回る。</p>	80	83.3	72%	90%	B	<p>○「全国学力・学習状況調査」(4月・6年生)では、個別期待値達成が83.3%で、一定の成果が見られた。 ○「標準学力調査」(1月・全学年)では、算数科、理科において、概ね個別期待値を上回り、基礎学力の定着が見られた。 ●国語科においては、8割が全国平均以上で概ね基礎学力の定着は図られているものの、半数の児童が個別期待値に到達しなかった。(分析)全校的に「話すこと・聞くこと」に課題が大きく授業改善が必要。加えて低学年は、長文の読解力、中・高学年は、「言語事項」で課題がみられ、読むことへの慣れや「繰り返し学習」などが必要である。</p>	<p>・国語科を中心に、主体的な学びを促し、学力を高めるための授業改善(研修)を進める。 ・複式指導の間接指導時に児童が自力で学習を継続できるよう、「学習規律の充実」と「学習リーダー」の育成を図る。</p>	3			<p>・適正に評価されている。 ・個々の成長が見られる数値が出るとうよい。</p>	
	<p>主体的に学ぶ力の育成</p>	<p>○算数科を中心に複式学級・少人数指導における、主体的な学びを追求する。</p>	<p>・算数科を中心に、各単元ごとに具体的な手立て(学習の進め方・ノート)を工夫し定着させる。</p>	80	84.6	86.8	109%	A	<p>○集団解決において、「自分の考えを図やグラフなどを指し示しながら話す」「分かりやすく伝える言葉で話す」「友達の考えのよいところを見つたり、そのわけを考えたりする」等、対話を意識する児童が増えた。 ○児童の算数科の学習に対する肯定的評価は依然として高い。 ●肯定的評価の項目が「よくあてはまる」から「まああてはまる」に移行した児童もいる。(分析)学習に向かう姿勢や学習リーダーを中心に学習を進めようとする意欲をさらに醸成する支援が必要である。</p>		<p>・算数科・理科については、「学年に応じた学習の進め方」「ノートスタイル」の指導を継続していく。</p>	3			
<p>豊かな心と健やかな体の育成</p> <p>・自分を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校</p>	<p>体力づくりの推進</p>	<p>○「体力・運動能力検査」の下位種目・平均値レベルの種目を継続的な取組にして、伸ばしていく。</p>	<p>・「体力・運動能力検査」の全国平均以上種目を80%以上にする。</p>	80	70.3	83%	104%	A	<p>○2回目の体力テスト(11月)で全国平均以上の種目は、全64種目中53種目となり(83%)、1回目の45種目(70.3%)から大きく向上した。特に、1回目で課題だった「投力」や「柔軟性」の項目が改善した。 ●「腹筋力」は全体的に向上しているが平均まで一步の学年がある。 ●「握力」は向上が見られるが2学年が平均未満であった。また、他の学年も平均値に近と。(分析)「握力」に関しては、各学年の取組(朝の会や体育の時間等)における握力向上に向けた運動は十分ではなかったとの反省があがっている。限られた時間の中で工夫した取組が必要。</p>	<p>・「握力」の向上に向けて、次の4点に取り組む。 ①体力づくり最重点項目を設定し、全職員が課題意識をもつ。 ②目標をもって主体的に運動に取り組めるカードを作成する。(今年度中に作成し、来年度当初から活用する。) ③「握力」を意識した運動(「つかむ」「ぶら下がる」「しぼる」等)を意図的に仕組む。体育や朝の会の運動メニューに組み込む。 ④実施に当たっては、進捗状況の管理をする。</p>	3			<p>・適正に評価されている。 ・体力は、以前は遊びの中で自然に身に付いていたが、学校で付けていかなければならないようになった。 ・一輪車は、上級生が乗っている、下級生も一生懸命になる。一緒に遊ぶ時間を作ることが必要である。</p>	
		<p>○全校で取り組む「さぎしま一周マラソン・一輪車・体づくり運動」等を活用した体力づくりを推進する。</p>	<p>・各取組の目標達成をめざすカード等を活用し、達成度100%にしていく。</p>	100	90.9	100%	100%	A	<p>○体力テストに関する「ステップアップカード」を1学期に活用したところ、意欲的にテストに向けて練習に取り組む姿が見られた。 ○「マラソンカード」の取組では、休憩時間に5分間一生懸命に走る姿が多く見られた。特に、タイムを記録させたところ、タイムの伸びを意識して、真剣に練習に取り組む姿が見られた。 ●「一輪車カード」(運動会を見据えた各学年の到達目標を明示したもの)、および「握力アップカード」は作成予定。</p>		<p>・個別の課題については、児童ごとに個別指導を行い、体力づくりに自主的に取り組めるように、家庭と連携しながら支援をしていく。</p>	3			
<p>信頼される学校づくり</p> <p>・地域を支え郷土の宝となる人材を育て、地域・保護者から信頼される学校</p>	<p>小小・小中連携の推進(同学年・異学年交流)</p>	<p>○小小・小中の授業・諸活動交流、海外交流を年間を通して実施していく。(授業研究・諸活動・読書活動)</p>	<p>小小の授業交流(年間3回) 小中の生徒指導の交流(年間6回) 異学年交流、海外交流の諸活動及び読書活動交流(年間10回以上)</p>	100	100	100%	100%	A	<p>○中・高学年による全校への本の「読み聞かせ」活動を、図書委員会の活動とリンクさせ、実施できた。 ○小中連携において、各学校の生徒指導上の課題を出し合ったり、各学校のきまりを交流したりして、中学校ブロックで統一した生徒指導ができるよう話し合うことができた。●その際、卒業生の様子について、中学校の先生と交流する時間をもったが、十分ではなく、今後の課題。 ○他校との交流として、校長のつながりで、中・町小学校との交流をもつことができた。(ホテル観賞会 観劇会 PTA活動等) ○海外の小学生とテレビ電話を通じた国際交流や、アジアの学生、ニュージーランドの訪問団(市長他)、広島大学留学生との交流活動を実施することができた。</p>	<p>・同じ中学校区児童との交流の場を設け、中学校区同士の交流を深め、中学校進学への取組につなげる。来年度は、集団宿泊体験活動で5年生が交流予定。小小連携の意義・学習効果を鑑み、今後も積極的な交流を計画していく。 ・学習した英語が、日常生活で使えたり、自然に英語を発したりできるように習熟に向けた取組を工夫していく。</p>	3			<p>・適正に評価されている。 ・さまざまな活動を通して、外国の人にかかわることに慣れてきている。伝えようという思いを感じるようになった。 ・対外的な交流はよくできている。鳥の人のかわりを増やしていけるとよい。 ・今後も本校をしっかりとしてアピールできたらよい。</p>	
	<p>特認校として、特色ある教育活動(英語教育)の推進</p>	<p>○特色ある英語教育を研究・実践し、島の学校の魅力ある教育内容としていく。</p>	<p>学期ごとの活動型英語を仕組み、地域や保護者に成果を公開して肯定的評価を受ける。(80%以上)</p>	80	87.5	100%	125%	A	<p>○今年度、多くの方の協力を得ながら、学校行事等様々な機会を生かしながら、外国の方との交流活動を実施し、児童に貴重な学習や体験を積み重ねることができた。 ○(その成果として)本校の特色ある教育活動に対し、地域や保護者から肯定的な声が多数寄せられている。また、児童へのアンケートにおいても、児童は様々な体験活動を通して、英語活動へのさらなる意欲を高めていることが伺える結果が出ている。 ○地域・保護者の声や児童の活動の様子をHPやお便り等に載せ発信したり、多数報道機関から報道をしていただいたりすることにより、本校の教育について多くの方々に知っていただくことができた。</p>		<p>・行事や活動後の児童の意欲の把握やその後の推移を注意深く見ていき、次の指導に生かしていく。 ・広く本校の取組を知っていただけるよう、特色ある取組について積極的にメディアへ案内を行う。</p>	3			

【j:自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。  
ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。